

# 貿易と関税 総目次

二〇〇七年一月～十二月号

## 〔単発・特集等〕

- ・ 日本・モンゴル FTA 環境保全型 FTA 形成の可能性と課題 (岩田伸人) 2・28
- ・ EC 新化学品規制 REACH と WTO/EC 法(下) (八ッルド・ホーマン 翻訳・平覚) 2・49
- ・ 関税関係法の新たな展開 (青山幸恭) 3・4
- ・ モンゴルの外資関係法規(上) (櫻井雅夫) 3・22
- ・ 途上国と米 FTA の知財条項 特許保護期間の延長制度と販売承認データ保護規定など (山根裕子) 3・38
- ・ 「貿易関連能力開発」の有効性と課題 (石塚哲也) 3・53
- ・ WTO 紛争事案 ゼロインギングについて (長谷川実也) 4・20
- ・ 国内企業の民営化と相殺関税 EC 鉄鋼事件 215 条パネル報告の分析 (白根) 4・32
- ・ モンゴルの外資関係法規(中) (櫻井雅夫) 4・42
- ・ 欧州憲法条約における経済ガヴァナンス問題と将来課題(上) (山下英次) 4・49
- ・ 経済・社会の活性化と税制改革 (森信茂樹) 5・4
- ・ EU 租税政策の形成 (佐藤正典) 5・18
- ・ 欧州憲法条約における経済ガヴァナンス問題と将来課題(下) (山下英次) 5・26
- ・ WTO 多国間交渉 GATT 農業交渉と WTO ドーハ開発アジェンダ (山浦広海) 5・38
- ・ 環境と経済 新しいビジネスモデルをめぐって (和気洋子) 5・4
- ・ モンゴルの外資関係法規(下) (櫻井雅夫) 5・30
- ・ 日本・アセアン FTA/EPA を考える (朝倉弘教/松村敦子) 7・4
- ・ 韓米 FTA 合意と日本及び東アジア経済統合への影響 (尾池厚之/馬場誠治) 7・18
- ・ 「グローバル貿易におけるセキユリティ強化と円滑化に関する調査研究」を終えて(上) (長瀬透) 7・35
- ・ アジアの安全保障問題と日米関係 (森本敏) 8・4
- ・ アジア・ゲートウェイ構想と関税行政 (青山幸恭) 8・16
- ・ 中国物流 その課題と展望 (丁 町田 一兵) 8・48
- ・ 今後の BRICS 経済 台頭する中国経済 (大橋英夫) 8・58
- ・ 独禁法をめぐる内外の諸問題 (上杉秋則) 9・4
- ・ 東アジアを舞台とする各国の攻防 (尾池厚之) 9・10
- ・ 日本・アセアン FTA/EPA を考える (朝倉弘教/松村敦子) 9・41
- ・ 「グローバル貿易におけるセキユリティ強化と円滑化に関する調査研究」を終えて(中) (長瀬透) 9・62
- ・ 日豪経済連携協定の戦略的重要性と日本経済への影響 (木村福成/久野新/板倉健) 10・4
- ・ EU 投資税制の構造(4) 投資税制の法的構造(3) (佐藤正典) 1・43
- ・ 日本・インドの FTA/EPA を考える(下) (朝倉弘教/松村敦子) 2・4
- ・ 日本企業の対インド投資の可能性 FTA 時代のグローバル化事業戦略を巡る (丸上貴司) 2・18

・ “欧州合衆国” は見果てぬ夢に (藤原豊司) 10・30	5・2	4・5	(中-21)
・ 名古屋港開港100周年記念 大いなる飛翔	230・対欧比較でみた日本の経済社 会	各論⑧：貿易実務家のためのウイ ーン売買条約講義・II	6・52 193・国際課税と抵触法(国際私法)
(末吉順治) 11・17	6・2	5・16	(中-22)
・ 最近の朝鮮半島情勢と日本の外 交	231・場当たり政治の日本を悲しむ	各論⑧：貿易実務家のためのウイ ーン売買条約講義・III	7・53 194・国際課税と抵触法(国際私法)
(重村智計) 11・36	7・2	8・36	(中-23)
・ 東アジアの地域統合と変貌する 物流事情	232・日本企業の買収防衛策はなぜ 支持されたか	各論⑧：貿易実務家のためのウイ ーン売買条約講義・IV	8・70 195・国際課税と抵触法(国際私法)
(藤崎成昭) 11・43	8・2	10・18・：	(中-24)
迷	233・日本経済の実相と政策論の混 迷	10・18・：	(中-24)
9・2	9・2	ボーダーレス・エコノミーへの 法的視座(石黒一憲)	6・86 196・国際課税と抵触法(国際私法)
234・欧米の金融変動とリスケー ク競争の構造	10・2	187・国際課税と抵触法(国際私法)	(中-25)
10・2	235・政治経済、攻守逆転の秋か	(中-16)	10・54 197・国際課税と抵触法(国際私法)
11・2	11・2	1・53	(中-26)
日本の原産地規則の概要・比較 分析篇(上川純史)	6・原産地規則の各論⑤	188・国際課税と抵触法(国際私法)	10・54
1・26	1・26	(中-17)	
2・53	グローバル商取引法と国際商事 仲裁(新堀聰)	2・53	EU法の最前線
4・54	各論⑦：信用状と詐欺・IV	189・国際課税と抵触法(国際私法)	81・EU法による民事司法協力と 「共同体系の完全な実効性」 (須網隆夫) 1・75
191・国際課税と抵触法(国際私法)	2・39	(中-18)	82・EU法の優位性と東欧諸国の 憲法
(中-19)	各論⑧：貿易実務家のためのウイ ーン売買条約講義・I	3・60	ポーランドとチェコの憲法裁判 所判決
(中-20)	192・国際課税と抵触法(国際私法)	190・国際課税と抵触法(国際私法)	(中村民雄) 2・75
5・53	192・国際課税と抵触法(国際私法)	(中-19)	83・欧州連合市民と欧州議会議員 選挙の選挙権・被選挙権

- (大藤紀子) 3・83
  - 84・WTO加盟国の対抗措置による個人の損害の救済可能性
  - (小場瀬琢磨) 4・75
  - 85・EC競争法と各国競争法の両方に違反する行為に対する損害賠償
  - (多田英明) 5・75
  - 86・年功型賃金制度をめぐる間接差別の成否
  - (橋本陽子) 6・75
  - 87・弁護士報酬規程とEC競争法・サービスの自由移動
  - (山岸和彦) 7・75
  - 88・指令にもとづく国内刑事罰加重の否定
  - (西連寺隆行) 8・91
  - 89・病人の移動と自由と国営健康サービス(NHS)の費用負担義務
  - (中村民雄) 9・107
  - 90・農地利用に関する構成国規制と資本の自由移動原則との衝突
  - (小場瀬琢磨) 10・75
  - 91・EU法の適用範囲と基本的人権に基づく資本審査
  - カルナー事件先決裁定
  - (須網隆夫) 11・85
- MOF・ing
  - 1・WCO総会について
  - (山岡時生) 9・81
  - 関税と貿易の散歩道(朝倉弘教)
  - 1・明治初期の税関呼称の混乱
  - 11・40